



公式サイト

柳川市民文化会館

【開館時間】午前9時～午後10時、月曜休館
【問い合わせ】☎73・7777

水都やながわ information

suito
水都やながわ

suito 文化講座

平野啓一郎との対話

三島由紀夫「金閣寺」をめぐって



平野啓一郎



三島由紀夫

今年、生誕100年を迎える三島由紀夫。三島の名作「金閣寺」をテーマに、平野啓一郎氏が対話形式の講座を開催します。日本文学界で最高の小説家に数えられる平野氏。「三島由紀夫論」を執筆するなど三島の研究家としても知られています。平野氏と参加者が「金閣寺」を巡って対話することで、より深い真実に触れることができるでしょう。「金閣寺」を最後まで読んでから参加してください。

- 日時 5月24日(土)午後2時開演(開場は30分前)
※終了後にサイン会があります。
- 入場料(全席自由) 4000円
- チケット 市民文化会館で好評販売中

壇遼ギターとの対話 Vol.1

～壇遼 plays フランスの詩と音楽～



壇遼



松本富有樹

ロランス・
シュヴァリエ

柳川ゆかりのギタリスト壇遼さんの「ギターとの対話」と題する3回シリーズのコンサートを開催します。1回目は「壇遼 plays フランスの詩と音楽」と題し、フランス音楽の底流に流れる詩と音楽の関係を紹介します。出演は壇遼さん、松本富有樹さん(ギター)、そしてフランス語による詩の朗読はロランス・シュヴァリエさんです。今年は作曲家のエリック・サティや小説家フランソワーズ・サガンなど、周年を迎えるフランス人アーティストが少なくありません。フランスのエスプリの香る詩と音楽をお楽しみください。

- 日時 6月1日(日)午後2時開演(開場は30分前)
- 入場料(全席自由) 4000円
- 前売券販売 3月1日(土)午前10時から市民文化会館で販売開始



【写真④】 ザラザラした石目の台紙にギザと金箔が施されている。裏面印刷はなし



【写真③】 色刷り。名前は入っていない



【写真②】 明治25年製。旭日鶴図に牡丹や菊、桜のフレーム、英字ネーム入り



【写真①】 黒一色刷り。ガーデンアーチのようなフレーム

写真を調査するとき、写っている人や物はもちろん、写真を貼り付けている台紙の時期の違いにも注目します。今回は、時期による台紙の変化を見てみましょう。

台紙とは、写真をプリントした印画紙を貼り付ける厚紙です。印画紙は丸まりやすかったため、厚紙に貼ることで真つすぐ伸ばしていました。もともとは舶来品でしたが、明治8(1875)年から国産台紙が作られるようになります。

明治16年頃から、台紙の裏面に写真館や写真師の名前、住所が、美しいフレームとともに印刷されるようになります。はじめは黒一色でしたが、明治19年頃から色刷りが出てきます。黒い台紙に金で印刷した豪華なものもありました。

写真①は、明治前期頃から細工町で営業していた池末写真館の台紙です。黒一色で、名前と住所が洋風の花のフレームで飾られています。台紙下部には「鴻野製」とあり、大阪心齋橋の鴻野多平の店に発注して作ったものと分かります。

写真②も同じく鴻野製ですが、写真師は細工町の池末ではなく、

写真を飾る台紙

市史編さん係 梅本 真央

く上町の池末で、意匠も朝日に鶴という縁起物です。

写真③は明治中期から後期に細工町の野片写真館で使われた台紙です。名前は入っていませんが、色刷りです。左下に「桑田製」とあり、製造者は大阪心齋橋の桑田商店のもので分かれます。また、この台紙はコバ(裁断面)に金箔を押しした「コバ金」という装飾も施されています。明治20年代後半頃から、台紙はただ写真を伸ばすための道具ではなく、写真を飾る商品として、いつそう趣向を凝らした装飾が施されるようになっていきました。

写真④は、コバをギザギザにカットした「コバギザ」、下部の写真師名は金打込みのゼいたくな装飾です。

こうした豪華な台紙は大正時代の初め頃まで盛んでした。大正時代以降は、個人でカメラを持つ人が増え、写真そのものの枚数も増えてきました。そのため、一枚一枚の写真を装飾するのではなく、自分でレイアウトできてたくさん写真の写真を収められるアルバムが多くなり、用いられるようになっていきました。

市史抄片別巻 vol.91

「思ひ出」写真館

※表記と表現は広報紙のルールで統一しています。

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月の広報紙に、集めた写真を紹介します。

【問】市生涯学習課市史編さん係(☎72・1275)